



笑う門には福来る

もう正月気分も大分抜けたが、遅ればせながらの新年会がまだ残る。新年会に限らず、宴会の締めは手締めが多く、三々七拍子か関東一本締めが普通だ。養蜂からスタートして、都市と自然環境との共生を目指す銀座ミツバチプロジェクトでは、蜂Ⅱ八に引つ掛けて三々七拍子ならぬ三々八拍子が行われる。最後の七拍子に一拍を追加し、最後の一拍をあたかも飛んでいく蜂を追うように手を前に出して手拍子する▼昨年一二月、山口県防府市に出かけたが、そこで出会ったのが「お笑い三笑」だ。手締め、あるいは万歳三唱に代わって、「お笑い三笑」で宴会の締め。両手を大きく空に伸ばしながら大声で三回、高らかに笑い声をあげる。いささか度肝を抜かれた感もあるが、愉快愉快。最後の締めで一段と盛り上がって終わり。皆、笑顔で家路につく▼この機会に防府天満宮にお参りしたところ、石鳥居近くの参道に「世界お笑い協会」が入った建物を見つけた。看板には、防府市台道の小俣地区に鎌倉時代から「笑い講」なる伝統神事があり、毎年一二月の第一日曜日に、その年の悲しみや苦しみを忘れるために、三度、大声を出して笑う神事が行われるとある。この「世界お笑い協会」は市観光協会が中心になって平成二四年一月に設立されたもので、「お笑い三笑」と笑いながら体操する「お笑い体操」の普及にとめている。誰でも研修を受ければ会員になれ、しかも「お笑いインストラクター」の資格まで取得することができる。こうした取組みが防府商工高生のアイデアから生まれたというのも面白い。

(土着菌)